

おかげさまで実施できました

新型コロナウイルスの影響で、内容を民泊体験からハウステンボスに一部変更し、日程も変更した長崎方面の修学旅行。台風 9 号と 10 号の動きがとても心配されましたが、お天気にも恵まれ、9 月 3 日(木)から 9 月 5 日(土)の日程で実施することができました。これまで、ご家庭や学園での健康管理、このような状況下での修学旅行にご協力をいただいた保護者の皆さまなどのお力添えに、感謝申し上げます。

平和とは? 一番大切なものとは?

長崎に到着して最初に行ったのは、10 歳のときに被爆された 三瀬 清一郎 さんからの聞き取り学習でした。お話しの冒頭で、生徒たちに「平和とは?」「あなたにとって一番大切なものは?」と問うていらっしゃいました。いろいろな考えはありますが、三瀬さんが考える平和は『あたり前の生活ができること』、「一番大切なものは『命』しかない。運よく助かったから命があった。命があったから今日みなさんと会えた」と話されていました。



また、争うためではなく平和に暮らすために生きていること。相手の気持ちを理解するには話し合うことが大切であること。物を大切にすることは、命や家族、友だちを大切にすることにつながることを教えていただきました。

語り部の平均年齢も 83 歳となり、若い人たちにバトンを渡すためとはいえ、家族 8 人が被爆したこと、被爆者であると差別されたことなど、思い出したくもない体験をわかりやすくお話していただきました。

そのような三瀬さんの思いに、私たち一人ひとりが生活の中でどう応えていくかを考えていきま

しょう。

お話を聞いた後に行った平和セレモニーでは三瀬さんの前で 71 期生学年平和宣言を読み上げました。以下はその抜粋です。



一つ目は、平和学習で学んだ戦争の恐ろしさや悲惨さを決して忘れず、次の世代に伝えていくことです。

二つ目は、今あたり前にできていること、今生きていられることに感謝して日常生活を送っていくことです。

三つめは、身近な人を大切にする事です。身近な人にひどいことを言わないように嫌がることをしないようにして、お互いを思いやることを実感しました。

未来を平和な世界にするためにできることを考え続け、行動していきたい。そして、今この 1 分、1 秒を大切に生きていきたい。



永井隆博士が生きての指針とした「己の如く隣人を愛せよ」(自分のことのように隣の人を愛しなさい)から如己堂と名づけられた建物。

1 日目後半の浦上地区フィールドワーク、2 日目の長崎市内フィールドワークやハウステンボスの様子は写真でお伝えします。班員が協力し、満足そうな表情をたくさん見ることができました。

いつもとは違う長崎 -3枚の写真の共通点は?-



1泊目の宿舎からの風景

楽しかったフィールドワーク・ハウステンボス



2泊目の宿舎

これまで行われた公式戦の大会成績は以下のとおりです。ただし、スポーツには勝敗はつきものです。勝ったから学べたこと、負けたからこそ学べたこと、試合に出られなかったから気づけたこともあるのではないのでしょうか。何よりこのような状況下で一生懸命頑張っていた姿はとても輝いていましたよ。

中河内大会
優勝

バドミントン男子団体
剣道女子団体



柏原大会
優勝

サッカー
バドミントン男子団体

準優勝

男子バレーボール
陸上女子総合
バドミントン女子団体
軟式野球

陸上女子砲丸投げ
バドミントン女子ダブルス
バドミントン男子ダブルス

陸上男子 200m
陸上男子 400m
陸上男子砲丸投げ
バドミントン女子ダブルス
バドミントン男子ダブルス

